

ひゅうまにあ 通信

Vol.80
2021.03

Contents

令和2年度群馬ふるさとづくり賞 ----- 02
受賞団体決定

地域づくり実践講座 ----- 05

事務局からのお知らせ ----- 12



群馬ふるさとづくり賞受賞団体「リンカーズ」



令和2年度 群馬ふるさとづくり賞

群馬県地域づくり協議会では、「群馬ふるさとづくり賞」を設け、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体等を顕彰しています。

本年度は、「リンカーズ」が群馬ふるさとづくり賞に、「野外活動グループ『稲含塾』」が群馬ふるさとづくり奨励賞に輝きました。

本賞は地域づくり活動の成果をアピールする機会として、魅力ある地域づくりの更なる進展を図る契機とするため設けているものです。

来年度も皆様からのご応募をお待ちしております。





群馬ふるさとづくり賞



リンカーズ【Linkers】 (みなかみ町)

開始年 平成29年 会員数 32名

代表 石坂一美氏

我々リンカーズは、自らが林家（りんか）となり、地域の宝である里山を次の世代にリンクさせる繋ぎ役になろうと、2017年に活動を開始しました。この度、これまでの取組が評価され、このような荣誉ある賞をいただけたことは大変光栄であります。これも、みなかみ町をはじめとする、多くの関係者の方々のご支援の賜物と感謝しております。

世界が認めたみなかみユネスコエコパークをしっかりと次世代に繋いでいけるよう、今回の受賞を励みに、これからも安全第一で無理なく楽しく活動に取り組んでいきたいと思ひます。



群馬ふるさとづくり奨励賞



野外活動グループ「稲含塾」 (甘楽町)

開始年 平成20年 会員数 約20名

代表 浅香勇二氏

私たち稲含塾は、甘楽町内の有志がボランティアで十数年にわたり、過疎化が進む秋畑地区で子ども達の自然体験活動を行ってきました。山登りや川遊び、野外調理、廃校舎でのキャンプなど試行錯誤しながら続けてきましたが、今回このような名誉ある賞をいただけて光栄です。これも町役場をはじめとした関係する皆さんが、温かく見守ってきてくれたおかげだと思っています。

これからもコロナの状況を踏まえながら、子ども達に飽きられない活動を長く続けていきますので、ご指導ご支援をよろしくお願い致します。



読売新聞東京本社前橋支局長 津崎 勝利 様

群馬ふるさとづくり賞を受賞されたみなかみ町の『リンカーズ』の皆さん、奨励賞を受賞された甘楽町の『野外活動グループ「稲含塾」』の皆さん、おめでとうございます。

群馬ふるさとづくり賞を受賞された『リンカーズ』は、町の豊かな自然の魅力を再発見し、新たに価値を創造する活動を繰り返しています。自伐型林業はとてもユニークな発想で、手つかずだった地域の里山や周辺の森林を住民たち自ら整理をし、山林の価値を高め、採れた木材を加工販売、有効活用する流れは、まさに持続可能な開発目標です。国からの補助金を活用し装備の初期費用を賄っている点、間伐材を使った加工品で地域活性化イベントに貢献していることも特筆すべきでしょう。ひとづくりにも大いに貢献しています。当初16人だったメンバーが、今では32人に増えたそうです。木材をおもちゃに加工し、地元の小学校での薪割り体験で、木に触れ合う体験を提供するなど、木育にも力を入れています。これからもふるさとの宝を掘り起こし、地域の魅力を高めて、子供たちに森林の重要性、地域との結びつきを認識させていって欲しいと思います。

群馬ふるさとづくり奨励賞を受賞された『野外活動グループ「稲含塾」』は、活動を通して町の豊かな自然の魅力を再発見し、地域に新たな価値を創造しています。過疎化が進む甘楽町秋畑地区を拠点に、10年以上に渡り、登山や廃校舎でのキャンプ、清流での川遊びなどの自然体験を子供たちに提供し続けています。家庭や学校を飛び出し、地元の美しい山や川で友達と一緒に過ごすひととき、子供たちは元気に飛び回り笑顔が絶えません。指導者や保護者スタッフ、ボランティアさんたちも、活動を通じて再発見があると仰っています。ごく身近にある稲含山の懷に抱かれた自然は、かけがえのない地域の財産です。その豊かさに触れ、子供たちは豊かな心を育んでいると思います。手造り感が溢れ、温かみのある活動を通じて、これからもふるさとの誇り、人との繋がりの大切さを、子供たちに伝えていてもらいたいと思います。

この度は誠におめでとうございます。



With
コロナ

地域づくり実践講座

今こそ、できる

地域に必要な ソーシャル アクション

今回は「地域づくり実践講座」として、「まきばプロジェクト」代表 秋山 麻紀氏にご講演いただきました。(令和3年1月29日(金)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、動画配信としました。(*P10 参照))



「まきばプロジェクト」は、「この街に笑顔を生み出す場の創生」を掲げ、企画運営を通してコミュニティづくりを目的に活動しています。私は代表の秋山と申します。今から11年前に、主人の転勤で群馬県に参りました。

自分の住む町をより良くしたいという思いから、様々なソーシャルアクションを起こして、今年で活動6年目を迎えます。



ストリートマーケット

◆ 一歩を踏み出すために

私が行っている事業は多岐に渡ります。実店舗を持たない人々が、商い、経済活動を行う『場』を提供する「ストリートマーケット」をはじめ、様々な企業や地方自治体と一緒にタッグを組み、多様な事業を展開しています。

すべての活動の根本にある理念は、「個人や地域の抱える課題や問題を解決・改善するための『場』づくり」です。

皆さんは、普段の生活の中で不便さや不満を感じたり、「あんなこといいな、できたらいいな。」と思ったりすることはありますか。それらを自らの力でクリアにしていく。自己達成していくことが理想だと考えています。

「まきばプロジェクト」はあくまで、そのための契機やきっかけ、チャンスを提供する『場』に過ぎません。すべては個々の自助努力によって解決する、それを前提としています。

◆ コロナ禍でのライフスタイルの変化

2020年、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、私達の生活が一変しました。私たちのライフスタイル、働き方、価値感、そして当たり前の概念までもが大きく変化しました。

私は一人の県民、市民、地域住民として今、何ができるかを考えました。ただ耐え忍ぶだけが、得策ではないはずです。今こそ、同じ地域に住む者同士、手を取り合う必要があるのではないかと。その思いから、仲間たちと様々な取り組みにチャレンジすることになりました。

昨年、新しく立ち上げた事業や取り組みは10件ほどあります。その中で最も注力したのが、飲食業界の支援です。大打撃を受けた飲食業界を支援することによって、卸売業者、生産者、その先までずっと支援の輪が広がるのではないかとこの思いで始めました。

◆ まきばプロジェクトの事例紹介

①キッチンカーを公共空間に

群馬県庁の県民広場で、昨年4月からキッチンカーによるランチ販売をスタートしました。官公庁は、コロナ禍でも機能を停止することなく、常に動いています。そこに潜在的な需要を見込み、供給と結びつけることを狙って始めた取り組みです。

官公庁が管理する公共空間という『場』は、これまで事業者が利益を生む活動、経済活動というのはタブー視されてきました。ですが、生き残りをかけ、新しい活動を見い出そうと奮闘する飲食業者にとっては、頼みの綱となる場所です。県が県民広場の利用許可基準を緩和することで、飲食業界に対するスピード

感ある一種の支援を実現することができました。私は、この県の決断に称賛を送りたいと思っています。そして、この流れは前橋市役所や前橋市保健所にも広がり、同様の事業を実施しています。



群馬県庁前キッチンカー

②伊勢崎市役所での取り組み

伊勢崎市役所ではキッチンカーではなく、飲食店のお弁当を食べて応援しようという取り組みを進めています。

本来、お弁当の提供は、仕出し弁当の営業許可がないと実施できないのですが、完全事前注文の出前形式で行う方法を採用しています。保健所の許可をいただけたことで、飲食事業者であれば誰でも参加することができます。

こちらは毎回、150～200食ほどの受注をいただいております、まとまった売上を確保できています。

昨年の5月から今まで計50回以上実施されましたが、売り上げの総額は700万円を超えています。



お弁当の準備

③いち早く情報を届けるために

飲食店の情報をひとつに集約し、皆さんにより効果的に発信するために、Instagramを使ったまとめサイト「takeout.isesaki」を立ち上げました。

SNSは、アナログな方には使いにくいという指摘もあります。しかし、いち早く支援が必要な時、紙媒体で素早くすべての人に情報を届けるのは、とても難しいことです。

その時に考えたのは、すべての情

報を市民全員に行き渡らせるのではなく、市民の半分に情報を届けることです。Instagramのサイトは、現在も閲覧数を伸ばしており、たくさんの市民の皆さまに活用いただいております。

④活動は次のフェーズへ広がっていく

今年の2月1日から飲食店の支援をより広い地域に広げます。これまで伊勢崎市、伊勢崎商工会議所、群馬伊勢崎商工会、まきばプロジェクトが、それぞれ行ってきた支援を一つに集約し、官民連携による「いせさきの飲食店を食べて！応援！キャンペーン」を展開します。一人ではできなかったことも、人が集まればできるようになります。

すべてに共通して言えることは、「神頼み、祈ることだけでは状況は好転しない」ということ。自分たちの力で変えていくしかありません。需要は常に変化しています。アンテナを張って、世の中の動向を見極め、いち早く適応していくことが大切です。



いせさきの 飲食店を 食べて！応援！ キャンペーン

期間 2021年2月1日～4月30日（予定）



◆ 需要の移動

飲食業界では、ライフスタイルの変化により、「店舗の中での食事」からテイクアウトなどの「職場や自宅での食事」をするスタイルへと需要が変容しました。これを先読みして対応できた人々は、新型コロナウイルスの影響を最小限に軽減できたのではないのでしょうか。

◆ 経費0円でもできる

これまで紹介した取り組みすべて、税金の投入は一切ありません。事業費自体も0円で、持ち出し経費もありません。

自分たちがそれぞれできることを持ち寄り、手を取り合うことで、キッチンカー事業などを実現できました。補助金に頼らなくても地域のために色々な事業ができる。そういう事例はまだまだ他にもたくさんあるはずです。

新型コロナウイルスによってできないことがたくさん増えましたが、一方で、繋がり方を変えてみることで、できることがたくさん生まれました。

◆ 地域づくりとは

皆さんに、お尋ねしたいことがあります。「地域づくりって一体何でしょう？」困っている人がいれば、手を差し伸べる人がいて、手を差し伸べられる人がいる。人と人が有機的に繋がって成り立つ地域社会。それが地域づくりの本質なのではないかと思います。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、何もしないという選択をするのではなく、手を



未来を守るために

取り合うことを決して諦めないことが大事ではないのでしょうか。思考の停止は衰退の始まりだと思います。物理的な結びつきは難しくても、心と心で繋がることは必ずできると思います。私たち一人一人が得意なこと、できること。それぞれいいものを持っています。だから補完し合うことができるのです。自分に足りない能力は、周りの誰かを頼ればいい。私はそうして周囲の人たちとも様々な取り組みを推し進めてきました。

この状況がいつまで続くかわかりません。もしかしたら、これからの日常になるかもしれません。息を潜めて生きるのではなく、一人ではできないことも、周りと一緒に手を携えて一緒に挑んでいきませんか。こんな時だからこそ、動かなければいけないことがたくさんあるはずです。できることから始めていきましょう。

地域を維持するということは、自分自身を維持するということでもあると思います。未来の地域を、未来の自分自身を守るために、いま一度、地域の有機的な繋がりとは何か、共同体の存在意義も含めて見直していきたいと思っています。



With
コロナ

今こそ、できる

地域に必要な ソーシャルアクション



NPO法人DNA
代表理事 沼田 翔二郎 氏



群馬県地域づくり協議会
副会長 杉原 みち子 氏



まきばプロジェクト
代表 秋山 麻紀 氏

まきばプロジェクト代表 秋山麻紀氏の講演後、群馬県地域づくり協議会副会長 杉原みち子氏、NPO法人DNA代表理事 沼田翔二郎氏、秋山氏の3人で「意見交換」を行いました。

杉原氏：群馬県地域づくり協議会副会長の杉原みち子です。秋山さんにご講演いただきましたが、それを受けまして意見交換をしたいと思います。まずは沼田さん、自己紹介をお願いします。

沼田氏：僕は北海道出身で現在高崎市に住んでいます。高崎経済大学地域政策学部への進学を機に移住して13年が経ちました。今はNPO法人DNAで教育の仕事をしています。大学時代に、社会活動で様々なことを経験し、こんな生き方、挑戦の仕方があるのだと衝撃を受けました。そういった機会をラッキーで終わらずに、学校と連携して、中・高校生たちが社会との繋がりを持って学んでいく教育環境を創りたいと思って活動しています。

杉原氏：秋山さんが4～5年の間に多くのプロジェクトを立ち上げたエネルギーや、できるようになったきっかけを教えてくださいませんか。

秋山氏：実は、人と一緒に何かをするのが小さな頃から苦手でした。茨城県北茨城市で生まれ育ち、東日本大震災で実家が被災しました。両親がボランティアの方々にすごくお世話になり、助け合うって本当に素晴らしいと思いました。自分でも何か地域に貢献したいという思いから、まきばプロジェクトを立ち上げることになりました。

杉原氏：4ヶ所転勤した後に、なぜ伊勢崎市を選んだのか。どんなところが一番良かったですか。

秋山氏：主人は転勤族で、10年前初めて群馬県に来た時に、なんて空が広いんだろうというのが第一印象でした。伊勢崎市という平坦な土地で、遠くに山が見渡せて、高い建物がなく、ここの空の広さに抱かれながら子育てをしたいと思ったので、すぐここに永住しようと決めて、家を建てちゃいました。

杉原氏：沼田さんは高崎市にきて、現実と理想の違い、その狭間で悩んでいる時に大宮先生（高崎経済大学名誉教授）とお会いしたと伺いました。

沼田氏：人間関係にトラブルを抱えていて、リセットしたいと思って群馬県にきました。そんな時期なので新しい人間関係を作ることができず、輪に全然入れなくて、できない自分に失望してひきこもりの生活をしていました。大学1年の時の必修授業で自己紹介をしたときに、担当の先生が「かみさんと同じ北海道士別市出身だ」と。一年が経過して少し心が復活し始め、リスタートをと思った時に頼ったのが、必修授業担当だった大宮先生でした。

杉原氏：私も大学の時に鬱になって、本当に酷かった時がありました。「人生には色んなことがある」という情報を聞ける場がないのが問題なのではないでしょうか。人と人をつなぐ、人と人が巡り会って、自分の人生を豊かにしていく。そのために、地域づくりはすごく大事です。ただ、秋山さんから一人でもやっていると聞いたとき、最初は理解できませんでした。SNS等を使えば自分の思っていることができるのかと。実際、人数が多いと、決めるまでにエネルギーを使ってしまい、疲れきってしまう場合があります。

^{タグ}
「無料では人は動かせない」とも言いますが、DNAはNPOですからお金も掛かると思います。その点はのでしょうか。

沼田氏：先生と家庭だけではない、地域社会全体で子供たちを育てる環境が非常に重要だと思います。それを皆さんにお伝えして、共感してくださった方から寄付をいただくなどして活動をしています。

杉原氏：DNAでは、様々な人たちが関わっていますが、どのようにネットワークが繋がったのでしょうか。

沼田氏：大学生たちが、自分の中学・高校時代に、そういう機会が必要だったと感じ、ボランティアに参加してくれていて、それが県外にも広がっています。

杉原氏：口コミなんですね。秋山さんの場合は、ツールを使って市外県外の方がイベントに参加していらっしゃいました。もう県内外や市内外という枠は関係無くなっています。

県立伊勢崎工業高校が、献血バスを招いた献血事業を22年ぶりに行いました。JRC（青少年赤十字）同好会顧問の教諭が呼び掛けたところ、多くの賛同者が集まり、こんなに幸せな体感ができるとは思わなかったと喜んでいましたが、やはりそういうチャンスがなかなか無いのだと思いました。

Youtube 群馬県チャンネル「tsulunos」

『令和2年度地域づくり実践講座』の動画をYoutube群馬県チャンネル「tsulunos」にて配信しています。

tsulunos 令和2年度地域づくり実践講座 検索



tsulunos
GUNMA PRET. STUDIO

杉原氏：今後についてはどうでしょうか。

沼田氏：新型コロナウイルスですごく難しい状況になっています。やはり『場』を開きづらなのが難しいです。『場』の重要性は秋山さんもおっしゃってましたが、開かれていくので人が集える。今は、例えば小さな『場』を連続的に作るなど、新しい場づくりの選択肢が地域づくりの活動や社会活動において、必要なのではとないかと思って活動しています。

秋山氏：繋がり方から変わる必要があると思います。ハートで繋がることもできるし、現実がダメならバーチャルで会える。今やるべきこと、やらなくていいこと、必要と不必要の選択について、ものすごく考えさせられました。それがこれからも、きっと続くのだろーうと思います。

杉原氏：「新型コロナウイルスが無くなれば」という話の流れがありますが、これから続くことも想定しなければなりません。軽く考えずに、ライフスタイルを見直すチャンスをもたらったのだと思って、考えていかなければなりません。

杉原氏：それでは、最後に一言ずつお願いします。

沼田氏：ソーシャルアクションは「自分から」始まっていきます。ライフスタイルが変わらざるを得ない時、どんな過ごし方をしたいか、悩んでいるのか、面白いと思っているか。振り返った時に、自分のやりたいことを実行したり工夫したり、それが連なってソーシャル

アクションになると思います。自分自身から始まっていくアクションを積み重ねていくことを、私自身も大切にして、群馬県の中高生たちが始めるアクションを、大切にできる教育環境をつくりたいと思います。

秋山氏：人は常に繋がっていたいと思うものです。その繋がりを諦めてはいけないと思っています。「コロナ禍だから」という言い訳を考えればきりがないので、できる方法を意識して、留めていただけたら良いなと思います。これを機に、もう一度みんなが考える機会をつくっていただきたいと思います。

杉原氏：「田中正造：日本初の公害問題に立ち向かう（伝記を読もう）」には、足尾銅山公害問題で奮闘した田中正造さんについて「一人ひとりが今生きている場所で、自分の頭で考え、人びとと地域づくりをしていくこと。一人ひとりの自立が村の自治をつくり、それらが集まって国という形をつくるのだと考えていた。」と記されています。今も昔も全く変わらない、物凄く辛い思いをしながら、この日本という社会がつくられています。先人たちに感謝をし、我々も必死に、そして楽しみながら生きていきたいと思っています。



『田中正造：
日本初の公害問題に
立ち向かう
（伝記を読もう）』
©2016
著者：堀切リエ
出版：あかね書房

事務局からのお知らせ



令和3年度群馬ふるさとづくり賞 応募団体募集！

「群馬ふるさとづくり賞」は、群馬県内で独自の優れた地域づくり活動に取り組んでいる団体を顕彰するものです。地域づくり・ひとづくりに取り組んでいるみなさんの地域活動をレポートにして、ぜひご応募ください。

詳しい内容と応募方法については、群馬県地域づくり協議会のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.gunma.jp/04/b1510056.html>

Youtube 群馬県チャンネル「tsulunos」

◆ 令和2年度群馬ふるさとづくり賞受賞団体のプレゼンテーション、授与式の様子を配信中



群馬県のYoutubeチャンネル「tsulunos」で活動内容をPRしてみませんか



群馬県 Youtube チャンネル「tsulunos」
<https://www.youtube.com/c/tsulunos/featured>

【対象】 群馬県地域づくり協議会加盟団体

【長さ】 3～10分程度

【内容】 団体の企画によります。

例 ①インタビュー形式による団体紹介
(県庁32階撮影スタジオ使用可) ※空き状況によります

②団体自身の進行による活動現場での団体紹介

③団体が開催するイベント等のPR等

※細かい内容は事務局との話し合いで決定します。

撮影や編集は基本的に事務局が行います。

(過去に撮影した動画や画像の使用もできます)

まずは、メール等で事務局までご連絡ください。

団体情報の変更について

団体代表者、住所、電話番号等、登録情報の変更がありましたら随時事務局までご連絡ください。ご連絡がない場合、事務局からのお知らせが届かないなど、ご不便をおかけすることになりますので、ご協力をお願いいたします。

電話・FAX・郵便等で
事務局までご連絡ください！



群馬県地域づくり協議会発行（群馬県地域創生部地域創生課内）

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL：027-226-2352（直通）FAX：027-243-3110

URL：<https://www.pref.gunma.jp/> 群馬県地域づくり協議会

検索

